

04 | LINK
05 | [つながるー海外事情(英語)]
世界に踏み出し
ひらけ未来の扉

08 | [HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ]
大坊 郁夫 学長が就任しました。
[まちがいさがしクイズ]
北星学園大学オリジナルグッズが当たる!

06 | [学生広報委員 企画ページ]
オープンユニバーシティのご紹介。

07 | [HOKUSEI CAMPUS NEWS]
2018年度前期に実施した事業や活動の一部を紹介。

つなぐと未来が
見えてくる。

点と点が線になるように。
一つひとつの学びは、いつか必ず、
あなたの夢につながるでしょう。
Shine like stars. 星のように輝いて。
あなたの夢は、私たち北星の夢です。

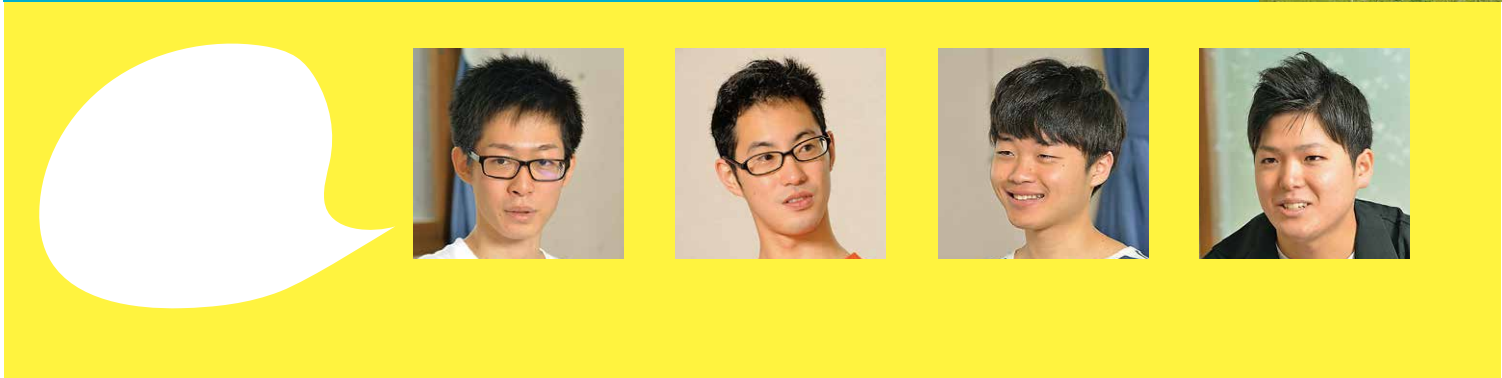


02-03

市営住宅で暮らそう。
地域とつながろう。

[札幌市×北星学園大学 学生への市営住宅提供事業]

社会福祉学部福祉臨床学科3年 我妻 真吾 さん
社会福祉学部福祉計画学科4年 中田 京佑 さん
文学部英文学科3年 加藤 拓人 さん
社会福祉学部福祉計画学科4年 岡田 共喜 さん



入居にあたり、第二もみじ自治会の総会に参加して歓迎会を開いてもらいました。実家にいた時も近所の方と挨拶程度は交わしていましたが、ここではそのあとに会話が続くんですね。フレンドリーで親しみやすい方が多いと感じます。

入居まもなく、洗濯機のホースを風呂に入れ忘れて階下に水漏れしてしまっただけです。慌てて謝りに行ったら「気にしないで」とやさしく対応してくれて、それから会うとよく話しています。失敗がきっかけとはいえ、顔見知りが増えるのは心強いですね。

僕も自治会の方に誘われて麻雀クラブに参加したり、同じ棟の人からおすそ分けをいただいたり、学生という立場もあるのでしょうか可愛がってもらっています。

第二もみじ自治





んどなく、自治会への関心の低さを感じます。

加藤: 自治会活動に積極的な人とそうでない人の温度差があるかもしれませんが。全ての人が挨拶を交わす訳ではないですが、高齢の方で返答がない時、寂しく思うと同時に孤立しているのではと心配になります。

岡田: もみじ台団地は地区計画で建築できる施設が制限されているため、事務所や喫茶店などの柔軟な活用を望む声もあると聞きました。地域に活気を取り戻すために、若い人にも住みやすい環境作りも必要かもしれません。

もみじ台団地の未来のために、自分たちにできること

中田: 若い入居者が増えて自治会にも参加するようになれば、地域全体に活気生まれるはず。学生入居者である僕たちは新しい試みの象徴として注目されているので、僕たち自身が地域を巻き込むアイデアを積極的に提案していきたいですね。卒業論文はもみじ台団地の生活や活動をテーマにする予定なので、現状の課題や解決方法などを意識的に探っていきたいと思います。

我妻: 現在僕たちが参加しているのは清掃活動くらいですが、冬にアイスキャンデルのイベントがあるそうなので、若い人を呼び込む企画を提案

したいと思っています。子どもや中高生が集まる機会が増えれば、その親世代も呼び込むきっかけになるのではと期待しています。

加藤: もみじ台団地は高齢者と子育て世代の中間にあたる層が少なく、世代間ギャップが大きいと感じています。僕たち学生が世代間をつなぐ役割を果たし、地域全体の交流が活発になればうれしいですね。

岡田: たった4人だけど、ここから輪を広げていくことが大事。まずは僕たちが「こうなったらいいな」という地域の未来像を描き、それを目指して何かに取り組む姿を示すことで、何かを感じてもらえたらと思います。

中田: これからは4人で集まる場を設けてアイデアを出し合いたいですね。今後入居学生が増えれば学生同士の意識の共有も課題になってくると思いますが、自ら生活しながら地域の課題と向き合う姿勢が受け継がれてほしいと願っています。



[事業担当者から]

若い皆さんのチャレンジに期待しています

札幌市都市局市街地整備部 住宅課 制度担当係長
せお たかし
清尾 貴志 さん

本事業の実施にあたり学生向け入居説明会を実施した際、住民の皆さんも多数ご参加くださり、関心の高さが伺えました。学生の皆さんも温かく受け入れられて団地の生活を楽しみつつ、現状をしっかりと見据えて課題解決の糸口を探っている様子が伝わってきて、とても頼もしく感じています。これからも地域の皆さんとコミュニケーションを深め、良い人間関係を築くとともに、学生らしい発想と行動力で新しい取り組みにチャレンジしてほしいですね。札幌市としても本事業が良い形で発展していくよう、今後もサポートしてまいります。



世界に踏み出し ひらけ未来の扉

つながるー海外事情(英語)

LINK
2018 2/22~3/17



北星学園大学には多くの海外渡航科目があり、その一つに「海外事情(英語)」というプログラムがあります。今回、私たち参加メンバーのうち11人が、活動の記録をこの誌面にまとめました。このオーストラリアでの授業は、私たち学生が取り組みを企画し、自主的に動く機会にあふれています。さまざまな学びから生まれた「LINK(つながり)」をここにレポートします。



海外事情(英語)とは

海外事情(英語)は、英文学科以外の学生が選択できるプロジェクト型の科目で、英語を使って学びます。2017年度は24名がシドニーとブリスベンの2チームに分かれ、自分たちが学びたいこと、会いたい人をもとに複数の交流プロジェクトを企画しました。シドニーでは大学生や教員との交流、ブリスベンでは現地企業人との交流会や企業訪問などを行いました。

LINKのはじまり

「LINK」とは、海外事情での活動をまとめたレポートのことです。LINKのはじまりは、先輩たちが2013年度のイギリスでの活動を後輩に伝えようと、国際教育センターの助成を受けて冊子にしたものです(写真・右)。当時の制作チームの岩本梨那さんは「LINKというタイトルには、海外で作った“つながり”、それを後輩へ伝える“つながり”など、いろいろな意味が込められています」と話してくれました。以来、冊子はウェブサイトなどに形を変え、毎年バトンをつないできました。記事を読んで「海外事情に参加したい」と決めた人も多く、LINKには学びの魅力が詰まっています。



私たちは全員、英文学科以外の学生です!

24名のメンバーは、文学部心理・応用コミュニケーション学科、経済学部や社会福祉学部から集まり、学科もさまざまです。それぞれ専攻の勉強が忙しかったのですが、一緒に活動できる時間を確保して、昼休みの英語の勉強会や合宿なども行いました。2月の渡航に向けて、前期から語学学習を積み、現地の方々と連絡を取り合い、準備を重ねました。

プロジェクトの成功に向けて

シドニーチームは、約半年かけてシドニー大学教員による特別講義と学生交流のプロジェクトなどを企画しました。講義の依頼メールの作成では、英語で正確に伝える、受け取ることの難しさを痛感しました。誰に会いたい、何をしたいなどを現地の先生と相談するときは、すべて自分たちでメールを書きました。ビジネスメールを書く経験がなかった私たちは、どう表現すれば正しく自分たちの意図が伝わるか、どの英単語が適切か、相手に失礼はないかを何度も確認し、書き直しをして送りました。メールのクオリティが現地での完成度に大きく影響するという緊張感が常にありました。

ブリスベンチームは企業人交流会と企業訪問の2つのプロジェクトを行いました。苦戦したのはスピードとチームワークです。ブリスベン在住のコーディネーターのアイクマンさんと作業を進めるなか、海外で働く人のスピードについて行くのは大変でした。毎日のように難しい英語メールが届くのに、私たちの準備が追いつかず、焦りが生まれ、チームがバラバラになってしまいました。先輩に相談すると「つらい時は周りに助けを求めなさい」「チームを一人

人でまとめるのは無理だから小グループに分けると効率が良い」とのアドバイスをもらいました。チームを何度も再構築し、精一杯準備をして2月の渡航を迎えました。



ブリスベンとのスカイプ会議の中で、興味のある企業をプレゼンしました

過年度のLINKレポートはこちら!



(ロンドン編)



(シドニー編)

【LINK2018編集メンバー】編集長: 吉村佳夏(文学部 心理・応用コミュニケーション学科) 編集班: 加川真愛・木川和弥・高橋優斗・仲谷莉美(文学部 心理・応用コミュニ

私たちが**LINK**から得た力

伝える力

行動力

チーム力

現地ではもちろん、帰国後も経験できることがたくさんある。「海外事情」は、自分にしかできないことを見つける素晴らしいチャンスです。

Sydney

自分を変えるのは自分自身

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 3年
仲谷 莉美

シドニー大学教育学部3年生のアナ・ラムジャンさんは、学生交流会でシドニー大学側のリーダーでした。彼女とはたくさん語り合いましたが、私が忘れられないのは「人生で自分を変えるような出会いは何ですか?」という私たちからの質問への答えです。彼女は「私の人生で自分を変えてきたのは、どんな時でも自分だ」と答えたのです。この言葉は新鮮で衝撃的でした。同じ大学生として彼女がいかに強い自立心を持っているかを感じた瞬間でした。また、彼女はどんな話題に対しても深い視点で考えや価値観を語ってくれました。今までアナのような学生に出会ったことはなく、彼女の姿から、自分の意見を持つことがいかに重要であるかを学びました。また、勉強の話もしましたが「自由時間は自分の専攻以外の勉強に使う」という言葉に、私も時間の使い方を見直すべきだと痛感しました。彼女からは本当に多くのことを学びました。これからはもっと自分らしさを大切に、自分の人生に対する責任感を持って毎日を過ごして行きたいと思います。



シドニー大学のアナさん(手前)、ロウ先生(右)、チア先生(左)と共に

忘れられない出会い

多様性を認める社会へ

シドニーではマルディグラという世界最大規模のLGBT※の祭典が行われており、私たちはパレードの参加者にインタビューを行いました。話を聞いてわかったのは、家族がレズビアンであることから参加して



同性婚が認められ今年により一層、盛り上がったパレード。

いる人や、ある少年がゲイということでいじめを受け自殺をし、そのことを知ってもらうために参加している人々がいることでした。一方、おいしいお酒を飲むためとジョークで返してくれる人も。驚いたのは、州警察



参加者にインタビュー。レインボーカラーは多様性のあらわれ。

やカンタス航空などの企業に加え、シドニー市長やオーストラリア首相も参加していたことです。少数派に対しての日本との寛容度の違いに圧倒され、多様性を知ることの難しさを感じ、同時に重要性も痛感した経験でした。

※LGBT: 性的少数者の総称のひとつ

興味をビジネスに結びつけるヒント

経済学部 経済学科 3年
舛森 亮太

私たちは現地企業人8名の方々と交流会を開きました。私は渡航前からアプリ制作などを行っており、ビジネスにつなげたいと考えていました。そこでブリスベンでのITビジネスで成功を収めたジョン・ネイラーさんの情報を見つけ、交流会に参加してもらおうと事前に交渉を行いました。快諾をいただいた後は、ビジネスの内容を詳しく調べ、チームで質問を準備してから渡航しました。現地での交流会の当日、実際にお会いしたネイラーさんの言葉で「ビジネスを見つけるポイントは、自国にない他国のサービスを持ち込むことだ」という助言がありました。私は、その数日前に訪問した「ブリスベンマーケティング」という、街の魅力を世界に発信するビジネスをしている企業を思い出しました。そして、このアイデアは北海道にも応用できると考え、帰国後は、海外事情のメンバーとともに「北海道マーケティング」という活動をスタート。SNSで北海道の良さを世界に発信しています。



念願のジョン・ネイラーさんと一枚。

現地企業人交流会

相手に思いを伝える!

突撃アポ取り

私たちは、現地企業訪問にチャレンジしました。日本から連絡を取ったのですが、英語でうまく連絡が繋がらず苦労しました。そこで現地に着いてから直接企業に出向き、訪問のお願いをしました。最初の会社は、意図が伝わらず断られてしまいました。しかし失敗を活かし、後半からは企業の特徴を調べた上でオフィスを訪れました。最終的には、UNIQLOやブリスベンパンディッツ(プロ野球チーム)などを含め、チーム全体で約10社の企業訪問ができました。多くの方から日本と異なるビジネススタイルや労働環境などに関する幅広いお話を伺い、貴重な経験となりました。このことから、思いを諦めず情熱を持って伝えることの大切さを学びました。



オーダーメイド紳士服の専門店を訪問。

後輩へ受け継ぐために

私たちは帰国後、海外に興味のある後輩のために、活動報告プレゼンや座談会を行いました。6月にはクラーク記念国際高校へ行き、特別講義を行いました。高校生に海外の面白さを仮想体験してもらおうと、私たちが考えた「海外プロジェクト・シミュレーションゲーム」を取り入れ、好評をいただきました。後期は、北海道教育委員会のグローバル人材育成事業の一環として、苫小牧東高校でもお話をさせていただく予定です。また、私たちは国際教育センターの「教育の国際化事業」の助成を受けて、シドニー大学でお世話になった2人の先生を北星へ招待し、交流会を企画します。これからどのような新しいつながりを生みだせるか、今から待ち遠しいです。



高校生に向けての特別講義。

今こそ! 北星に行こう!!!

本学では、地域の皆さまに受講していただける北星オープンユニバーシティを年間2回募集しています。地域の方と学生が共に学ぶ北星オープンユニバーシティについて、今号から2号にわたりキタボシ(学生広報委員)の目線で紹介します! 後期の申し込み期間は9月11日までです。



北星オープンユニバーシティとは?



北星オープンユニバーシティは、在学生や卒業生だけではなく、一般の方も本学教室で受けることができる講座です。年間を2期に分け、前期(5月～9月)と後期(10月～翌年2月)で行われています。北星オープンユニバーシティにはさまざまな分野のものが、スペイン語や中国語、英会話などの語学講座、PCソフトのExcelやwordが学べる講座などがあります。また、「経済指標でみる経済動向」などのビジネスに着目した講座やキリスト教を学べる講座もあり、学生のみならず一般の方にも役立つ学びが揃っています。私たちキタボシが取材に行った「Travel English Plus」の授業は18時から始まりました。老若男女が一つの教室で混ざり合い、講師の先生と笑いながら学ぶ姿は新鮮でした。皆さんもぜひ参加してみませんか? 北星オープンユニバーシティについてのお問い合わせはC館1階の社会連携課までお願いします。詳しくは下の欄をご覧ください。

英会話

「Travel English Plus」を教えているブライアン・バーズ先生(以下バーズ先生)にキタボシがインタビューさせていただきました。先生はアメリカのウィスコンシン州出身。昔からアメリカ以外の場所に住みたいと思っていて、27年前に観光で訪れた日本を気に入り、友人の勧めもあって札幌に引っ越したそうです。札幌では英会話教室に勤め、その後NHK文化センターや幼稚園、高校などで英語を教えました。現在は本学やインターナショナルスクールで教鞭をとっています。

バーズ先生が受け持っている講座は「英会話中級」と旅行先で役立つ「Travel English Plus」、TOIECや英検対策の「Study and Test Skills」の3つです。これらの講座を受講する方は、目的も、住んでいる地域も、年齢もバラバラです。資格取得をめざして学ぶ高校生もいれば、生涯教育として参加する方、海外旅行に備えて勉強する人もいます。札幌市内はもちろん、遠くは苫小牧や小樽から来ている受講者もいました。

バーズ先生は、年齢に



に関係なく英語に興味がある人、勉強を「楽しんで」できる人にはぜひ参加してほしいとのこと。そういう方は上達が早いそうです。コミュニケーションを取り合う英会話は、間違えることを恐れて使おうとしなければ、身につけません。先生によれば、ネイティブでも間違えることがあるので恥ずかしがることはないそうです。とにかく楽しんで英語を勉強することが上達への近道ですね!



受講した学生に聞きました!

私は北星オープンユニバーシティで「MOS Word 2010 スペシャリスト」を受講しました。実は、大学に入るまで一切パソコンで文章作成をしたことがありませんでした。大学の授業で一通り扱いは習いましたが、もっとWordを使いこなせるようになったのがこの講義を受講した理由です。受講料の学生割引があったのも嬉しかったです。受講後はWordで応用のきく文章を作成できるようになりました。この講義を受講して良かったです。

後期にある授業

北星オープンユニバーシティは後期も開講されます! ネイティブ教員による講義もあり、難易度や目的に応じて細かく分かれた「語学(英語・中国語・ハングル・ドイツ語・フランス語・スペイン語)」や、企業や就職活動に役立つ「Word2016、Excel2016 スペシャリスト」、さらには北星学園大学らしさが光る「東方キリスト教の珠玉」など、月曜日から土曜日の間でさまざまな講座が開講される予定です。開講予定講座の詳細はウェブサイトでご確認ください。誌面に登場したブライアン・バーズ先生が担当される授業も開講されますので要チェックです!

開始: 10月12日(金)からスタート
申込期間: 8月25日(土)～9月11日(火)
申込方法: ウェブサイト <http://www.open.hokusei.ac.jp/>、または電話

社会連携センター (社会連携課 C館1階)
電話 / (代表) 011-891-2731

平日8:45-17:00 (11:30-12:30を除く) 土日祝日 / 休み



本学では、学生はもちろん保護者や地域のみなさまに有意義な取り組みを多彩に展開しています。2018年度前期に実施した事業や活動の一部をここにご紹介します。

北海道ピア・サポートコンソーシアム キックオフ会が開催されました

5月26日(土)、北海道ピア・サポートコンソーシアムのキックオフ会が開催されました。北海道ピア・サポートコンソーシアムとは、北星ピア・サポーターが北海道内でピア・サポートに取り組んでいる大学・短大に声をかけてできた組織です。ピア・サポートの実践に必要



北星ピア・サポーターリーダーによる開会の挨拶

な共通する基礎力を身につける研修を開催する「研修事業」、他大学との交流を通して自大学の活動の活性化につなげる「交流事業」の2本を柱に据えています。今回はその北海道ピア・サポートコンソーシアムのキックオフ会で、4大学42名(教職員含む)の参加がありました。大坊郁夫学長、北星ピア・サポーターリーダーの挨拶でキックオフ会の幕があげ、設立趣旨に関する説明や各大学の活動紹介を行いました。その後は所属大学が分かれるグループをつくり、アイスブレイクや今後のコンソーシアムを考えるワークを実施。プログラム終了後の懇親会も大いに盛り上がり、これからの北海道ピア・サポートコンソーシアムの発展を予感させるものでした。この日が誕生日となった北海道



ピア・サポートコンソーシアム。これから北海道内の大学のピア・サポート活動の発展に大きく貢献することと思います。

アイスブレイクは北星ピア・サポーター企画係が担当

※ここでいう「ピア・サポート」とは学生による学生への学習支援を指します。

本学短大生がトンネルペインティングプロジェクトに参加しました!

札幌市厚別区では、再開発予定地となっている新さっぽろ駅周辺地区にあるJR千歳線高架下のトンネル(厚別区厚別中央1条5丁目～1条6丁目)の壁面に絵を描き、落書きが点在するトンネル内を明るく快適な空間に一新することで、地域住民や通行人に愛着を持ってもらおう



5月のペインティングの様子

などの生徒とアドバイザーとして本学短期大学の川部准教授が参加しました。3月に2回ワークショップを開催し、メインテーマである「ゆめ」に沿ってデザインを考えました。その後、4月28日にトンネル壁面に

と「新さっぽろ街角アートトンネルペインティングプロジェクト」を企画しました。その企画に、本学短期大学部生活創造学科クリエイティブデザインゼミの学生、北星学園大学附属高等学校



完成しました!

下書きを施し、5月2日～4日に地域の小学生・中学生たちと、企画に参加している生徒・学生たちでペインティングを行った結果、素敵なトンネルに仕上がりました。新さっぽろにお出かけの際は、ぜひトンネルまで足をお運びいただき、ご覧いただければと思います。

北星学園大学×赤い羽根共同募金コラボピンバッジができました

赤い羽根共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。厚別区共同募金委員会では、2015年度から「厚別区オリジナルピンバッジ」を作成して募金活動を進めていましたが、この度厚別区にある大学ということで本学に依頼があり、バッジデザインに協力させていただきました。一つは、大学福祉計画学科の岡田直人ゼミの学生と、短大生活創造学科の川部大輔ゼミの学生がコラボしたデザインで、厚別区の地名「もみじ台地区」と「青葉地区」にちなんで赤と緑の葉を配置しています。もう一つは大学でデザインしたもので、中心にあるのは本学の校章です。両デザインともに札幌市社会福祉協議会のイメージキャラクター「まもりん」があらわれています。どちらも1個500円となっており、厚別区内の各種地域イベントや、厚別区社会福祉協議会(厚別中央1条5丁目厚別区民センター内)で販売しております。



岡田ゼミ×川部ゼミコラボバージョン



大学バージョン

【お問い合わせは厚別区社会福祉協議会 011-895-2483へ】 ※大学では販売していませんのでご注意ください。

留学生ホストファミリー 募集

本学協定校からの交換留学生を長期または短期で受け入れていただけるご家庭を募集しています。

■受入要件

- 家族単位(単身不可)で生活していて、北星学園大学まで公共交通機関を用いて約1時間以内の範囲にお住まいのご家庭。
- 留学生用に一人部屋(寝具・勉強机)を提供して下さること。
- インターネット環境(wi-fi)が備わっていること。

■受入期間

- ① 4月上旬～7月上旬(春学期)
- ② 9月上旬～12月上旬(秋学期)

※シフト・ホームステイ(週末1～2日間のみ)も募集しております。

■お問い合わせ

北星学園大学国際教育課
TEL: 011-895-1000(直通)
Mail: intlcenter@hokusei.ac.jp
◎詳しくは大学HPをご覧ください▶



予告 10月7日(日)・8日(月・祝) 第57回 星学祭 開催! この機会にぜひ北星学園大学のキャンパスへお越しください。



TOPICS

大坊 郁夫 学長が就任しました。



学長 大坊 郁夫

田村 信一 前学長の任期満了に伴い、2018年4月に大坊 郁夫(だいぼう いくお)が本学学長に就任しました。任期は2022年3月までの4年間となります。

【皆さまへのメッセージ】

18年ぶりに札幌、そして本学に戻りました。久方ぶりに春から初夏にかけて鈴蘭、ライラック、アカシア、ラベンダーの花の香しさを身近に楽しむことができました。開学から57年目を迎えた本学。その伝統を活かしながら、さらに社会に貢献できることを心がけた、活気のある新たな学びの工夫をしております。そして、地域の皆様との連携を心がけますので、どうぞよろしくお願いたします。

【略歴】

1947年生まれ。

1972年3月、北海道大学大学院文学研究科修士課程(心理学)修了。

1973年3月、北海道大学大学院文学研究科博士課程(心理学)退学。

札幌医科大学心理学教室助手、山形大学教養部専任講師、助教授を経て、1988年4月、北星学園大学文学部教授として着任。

1996年4月、北星学園大学社会福祉学部教授。

2000年4月から2012年3月まで、大阪大学大学院人間科学研究科教授。同大学名誉教授。

2012年4月から2018年3月まで、東京未来大学学長。同大学名誉教授。

北星学園大学オリジナルグッズが当たる!

まちがいがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違いを探してください。ハガキに答えを記入して応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス!

[今号のまちがいがしスポット]
オープンテラス

センター棟の1階にカフェがあり、天気の良い日はオープンテラスを利用することもできます。
写真中心のピンクの花は西洋シャクナゲで、海外協定校のルイス&クラーク大学からの寄贈によるものです。



★応募要項

ハガキに以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

- ①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
- ⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいがし」係

2018年10月31日(水)必着

★正解発表

『HOKUSEI@COM』26号(2019年1月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

[前号の正解]

